

植物のはがき絵を描こう (図画工作)

熊本市立飽田東小学校 前田康裕

■ 授業のねらい

授業参観の時に、うちの人に見てもらうための「はがき絵」を描くという授業です。じっくりゆっくり描くのではなく、水彩画の特長を生かしながら、さっと描いていく方法です。写実的に描くことが必ずしも良いわけではありません。様々な描き方を学びながら、絵を描くことの楽しさを味わうことが、この授業のねらいです。

また、うちの人にメッセージを書く、ということによって、子どもたちは目的意識をもつようになります。授業参観当日は、子どもたちのはがき絵を一生懸命に読んで下さる保護者でいっぱいになります。

■ デジタルコンテンツからの「子どもたちの学び」

制作のためのポイントがPDFファイル(hagakiepoint)にしてあります。パレットや筆洗の使い方なども示してありますので、制作前に提示することで、子どもたちは基礎的な道具の使い方を学ぶことができます。また、筆洗の使い方を動画ファイル(hissen)にしてあります。色を濁らせない筆の洗い方が分かります。

また、「はがき絵の描き方」(hagakie1, hagakie2, hagakie3)の動画ファイルがあります。今回は、色をパレット上でまぜないで着色を行います。つまり、画用紙上で色をまぜるのです。これにはコツがいります。また、線の動きも、微妙な勢いが必要ですので、この動画が役立ちます。

■ 教材作成のポイント

静止画コンテンツでは、ポイントを分かりやすく文章でまとめました。パワーポイントで制作したものをPDFファイルにまとめたものです。このような単純なものでも、提示するための教材となります。動画コンテンツは、「描き方」そのものを動画にしたものです。微妙な色のまざり具合や、筆の動かし方が分かるように撮影してあります。

■ 授業の流れ

1、導入 (デジタルコンテンツ「hagakiepoint」)

まずは、できあがりのイメージをもたせます。教師が実際にサンプルを作ってみるのが一番良いです。教師自身が、子どもたちのつまづきやすいところを把握することができます。時間がない場合は、静止画コンテンツの作品集を見せるのも良いでしょう。子どもたちに「わあ、きれい」「面白そう」と思わせることが重要です。

2、描き方のポイント (10分程度) (デジタルコンテンツ「hagakiepoint」)

静止画コンテンツを示しながら、「今回は、変わった描き方で描いてみましょう。」と言って、静止画コンテンツを示します。



- 水をたっぷりつけて、筆にふくませましょう。
- 絵の具は筆の先だけにつけます。
- パレットでは混ぜません。画用紙の上で混ぜます。
- りんかく線は描きません。いきなり色をつけるのです。
- 同じ部分も「赤」と「橙」のように近い色2色で塗ります。
- 手のひらよりも小さく描きます。
- 一つ5分以内で、さっとしあげて、たくさん作ります。
- 芸術家っぽく、ちょっぴり、かっこうつけて描きます。

描き方



- 水をたっぷり
- 絵の具は筆の先だけ
- パレットでは混ぜない
- りんかく線は描かない
- 近い色2色を使う
- 手のひらよりも小さく
- 一つ5分以内で描く

• 芸術家っぽく描く

hagakiepoint

描き方は、動画コンテンツ(hagakie1)を提示して、その微妙な着色の方法を知らせます。パレットで色を混ぜずに画用紙の上で混ぜるコツが分かるでしょう。また、色を濁らせないために、筆洗の使い方(hissen)の動画コンテンツを示すとより分かりやすいものになるでしょう。



hagakie1



hissen

3、スケッチ (35分)

B3の画用紙に、6つから9つくらい描くようにします。一つの絵が一つのはがき絵になります。花の大きさは、てのひらよりも小さめに描くようにします。また、花と花の間は適当に間をあけるように指示します。



今回は、たくさん描いてみて、よくできたものを作品にするわけですから、気楽な気持ちで描くように言葉をかけていきます。

4、しあげ (45分) (デジタルコンテンツ「hagakie2」「hagakie3」)

しあげは教室で行います。はがき大の大きさに切り抜いた厚紙を上置いてトリミングします(hagakie2)。字を書くスペースをあけることがポイントです。鉛筆でうすく線をひいて切り取ります。

切り取ったものの中から、もっとも気に入っている絵から作品にします。「うちの人に感謝の気持ちをこめて文章を考えましょう。(hagakie3)」と指示します。絵が淡いので、くっきりしたボールペンとよく合います。



hagakie2



hagakie3